

R18  
Adult Only

RVLT



# はじめてのブラッドI

H A J I M E T E N O B L O O D I

この物語は俺  
がノードで冒険した  
数日後に始まる

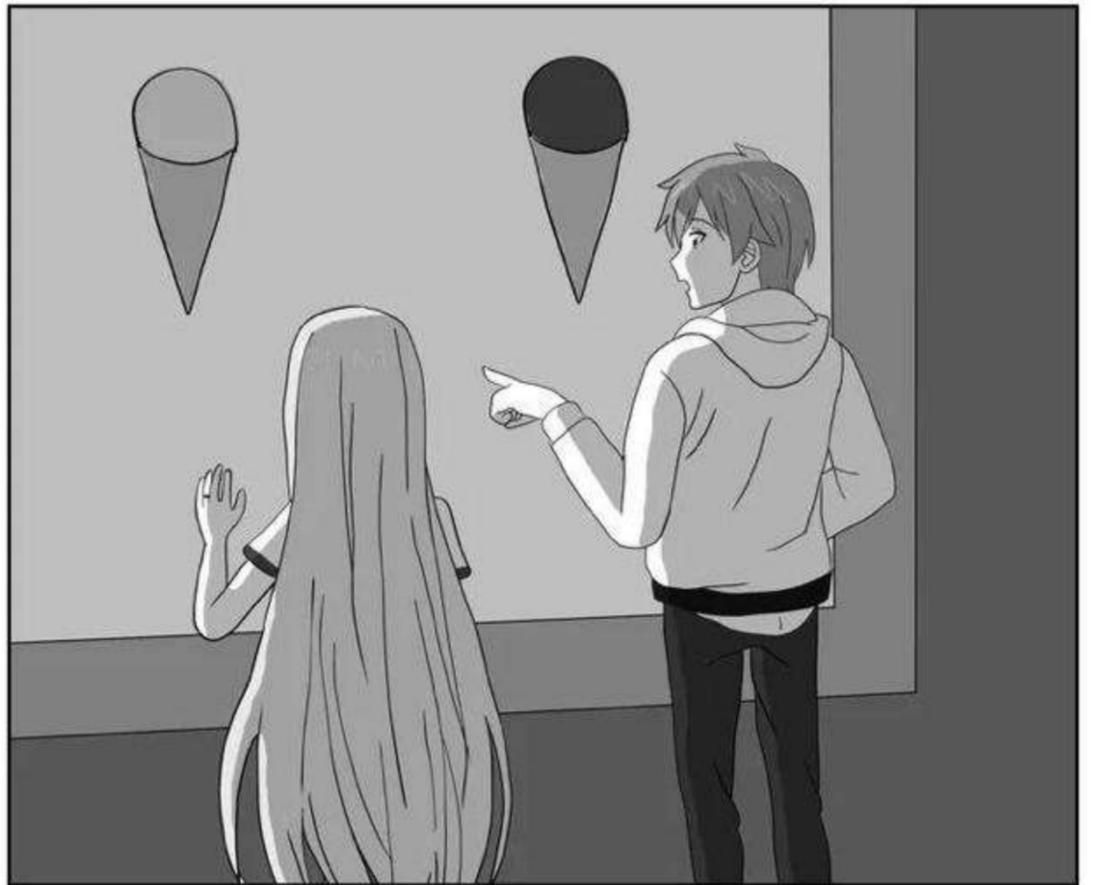
アヴローラが  
俺の人生に戻って  
きた後に

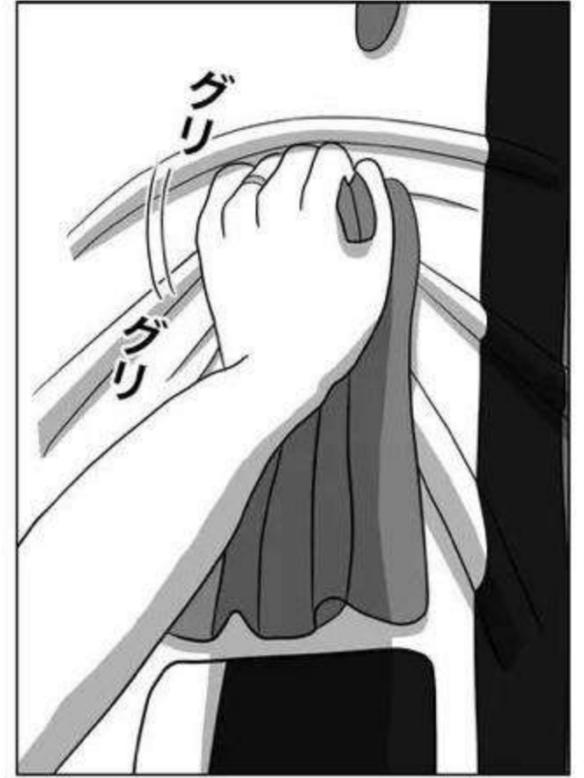
長い間彼女を失った  
彼女との記憶まで  
遮断されたんだ

俺にとって  
めっちゃ大切な人だ  
この人なし不完全な  
思いしてたほど

今は失った時間を  
取り戻して  
彼女と一緒に  
過ごしたいだけだ

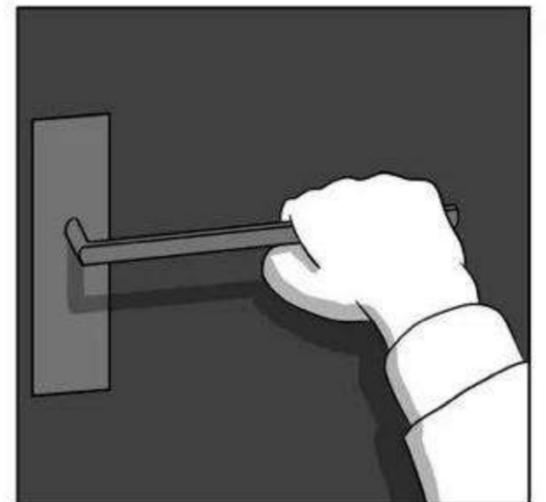
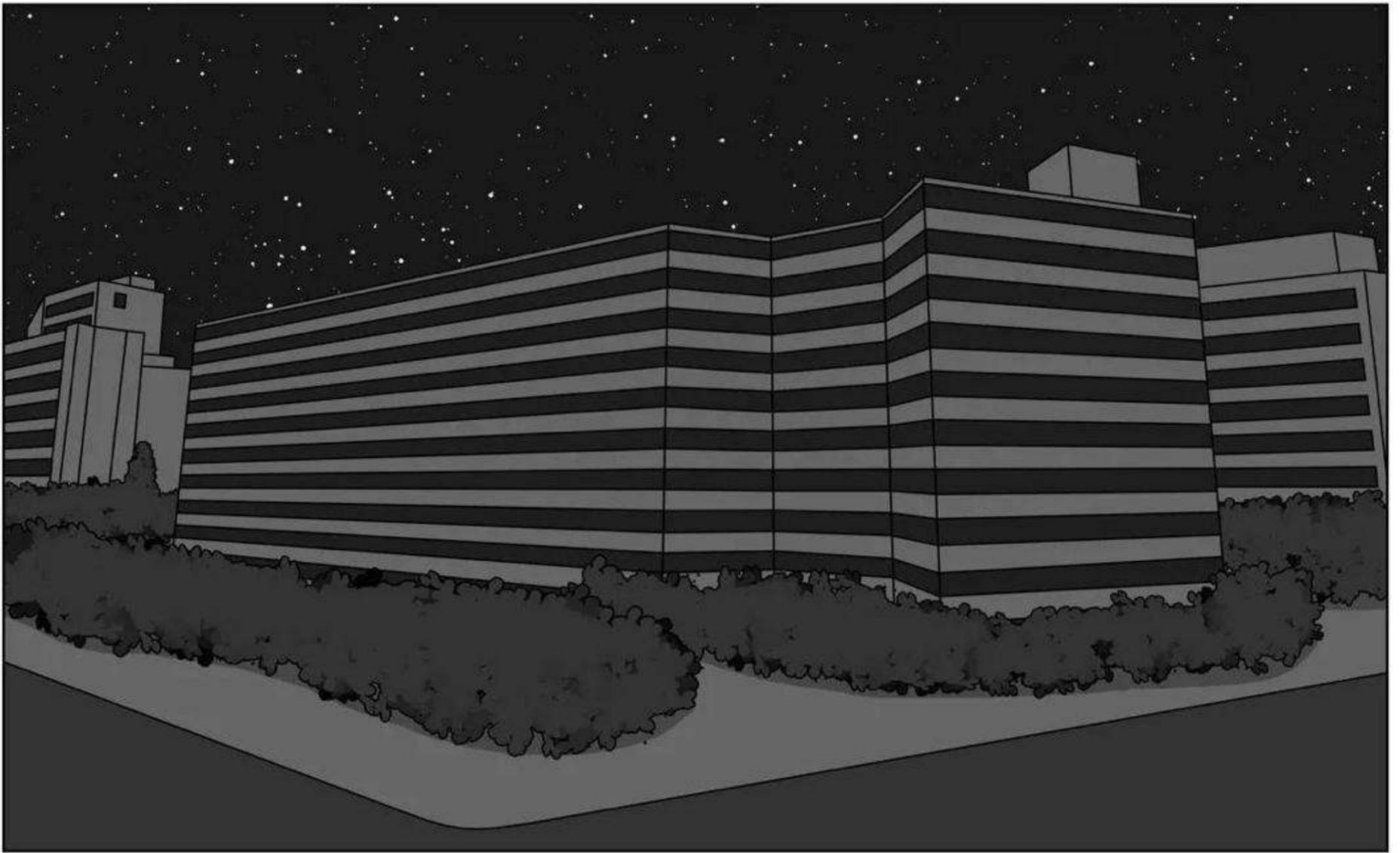


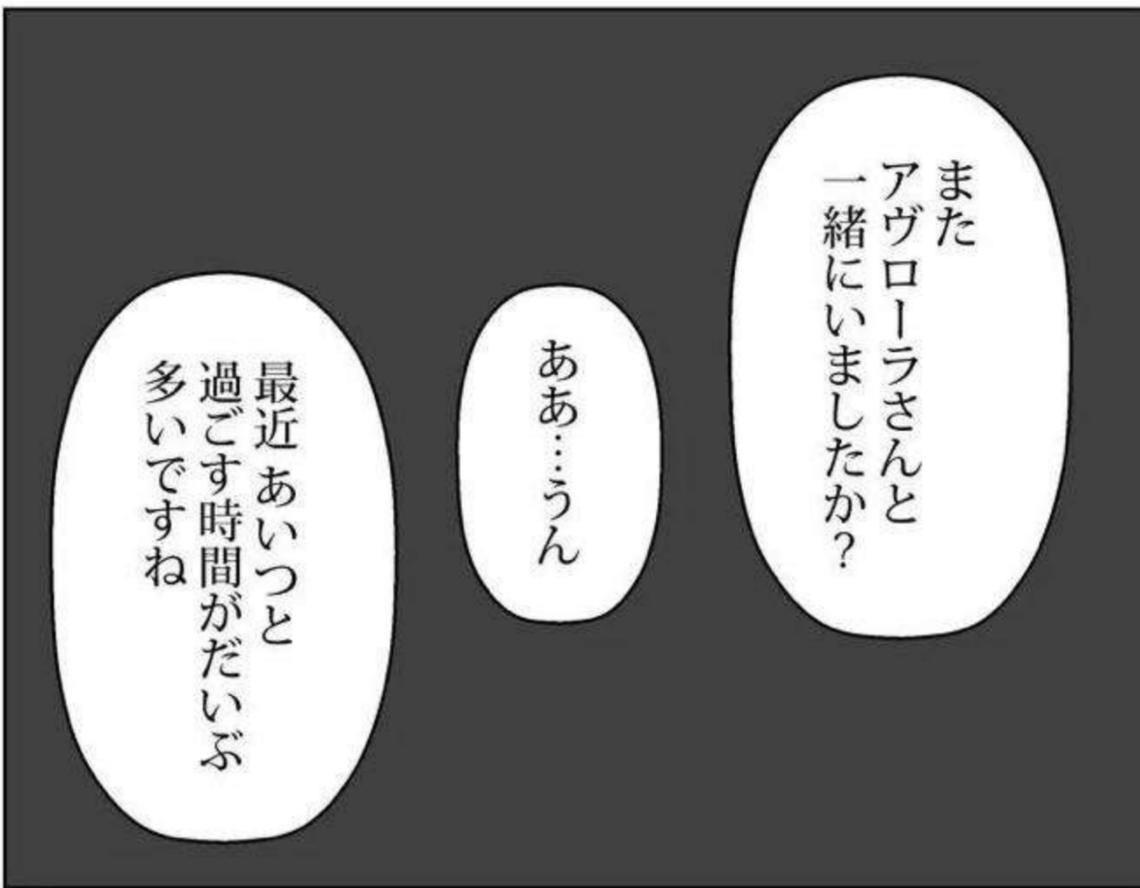


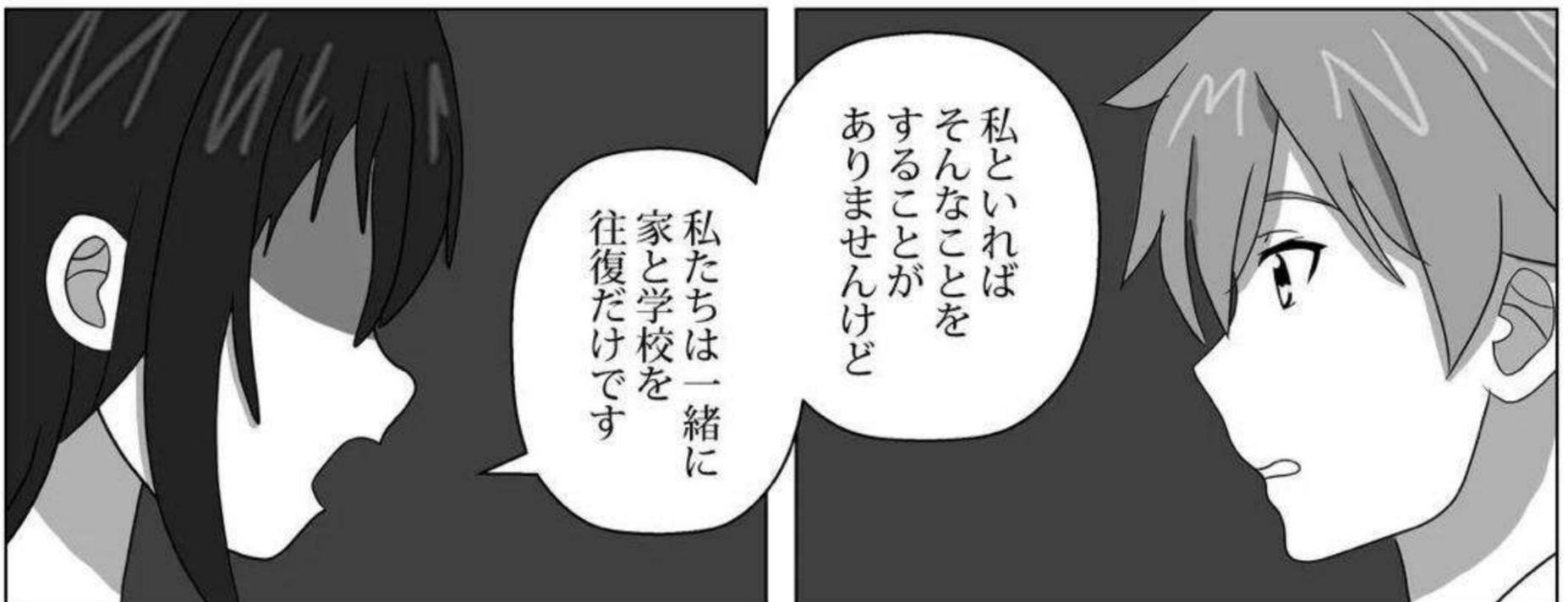




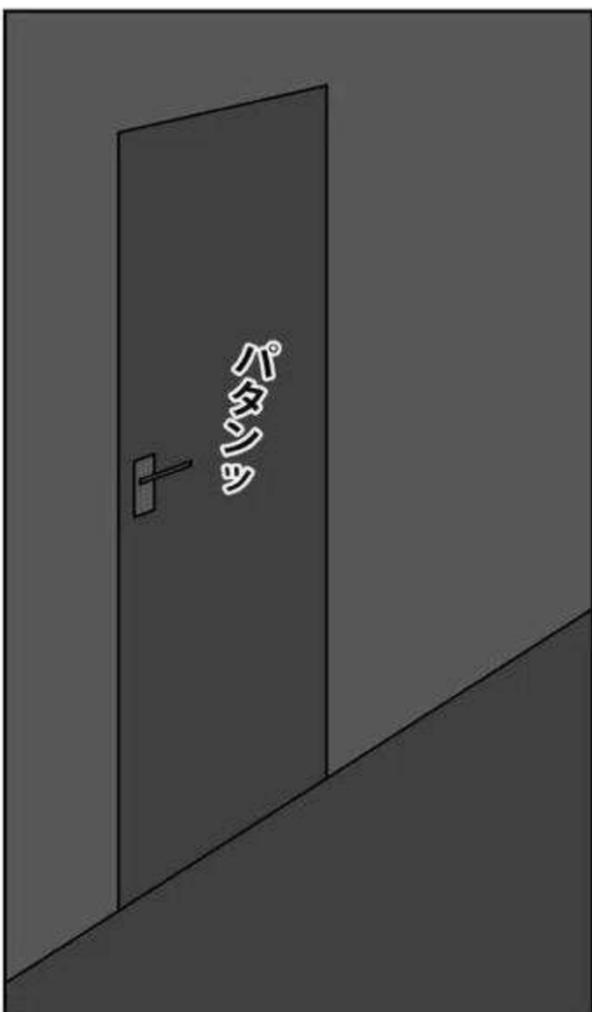
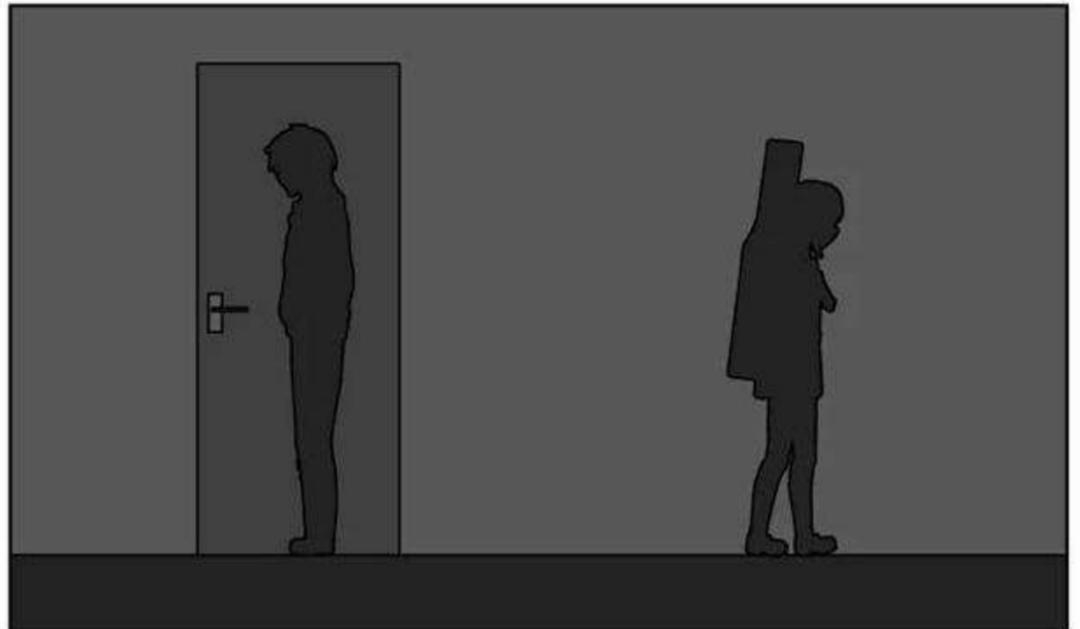


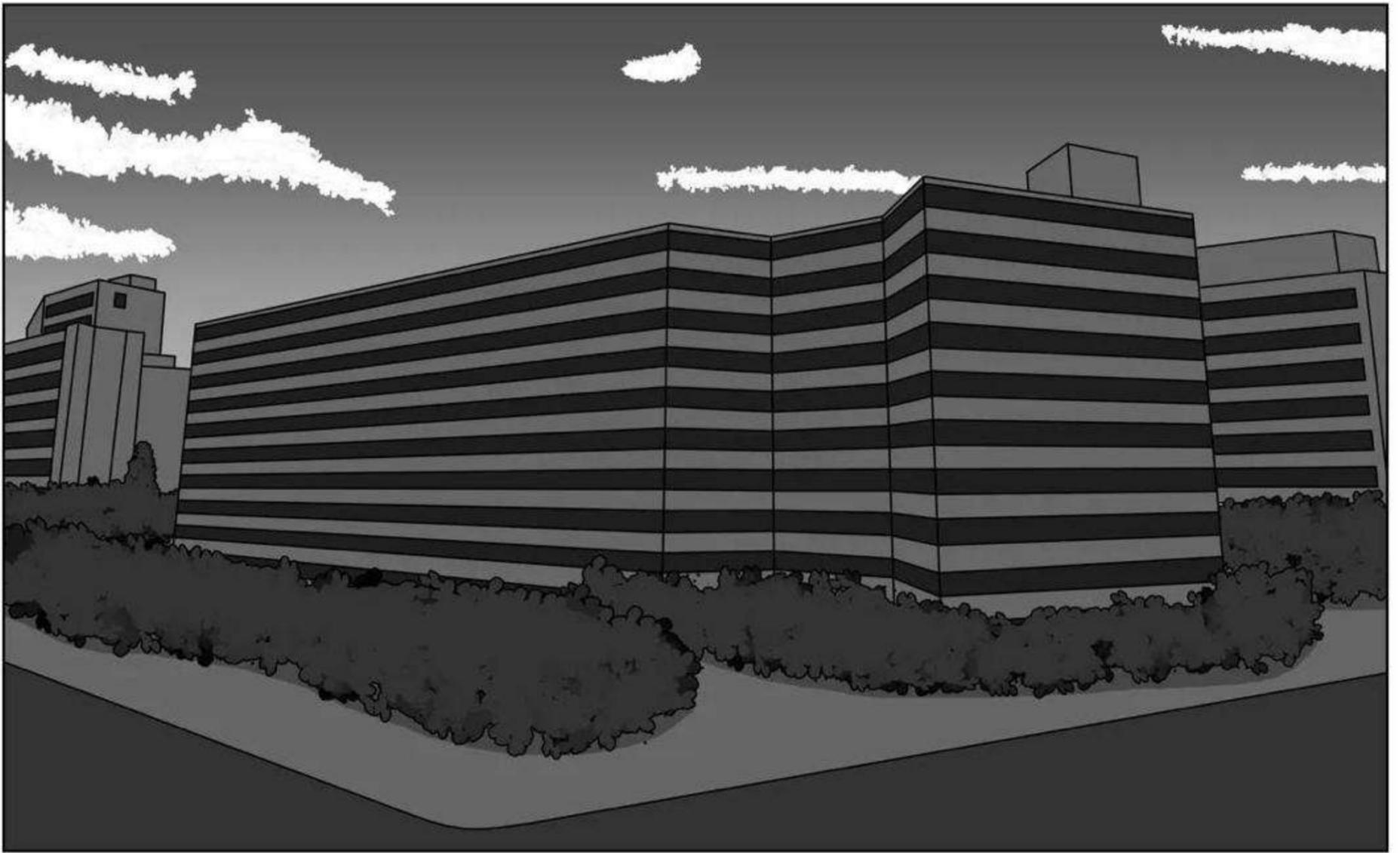


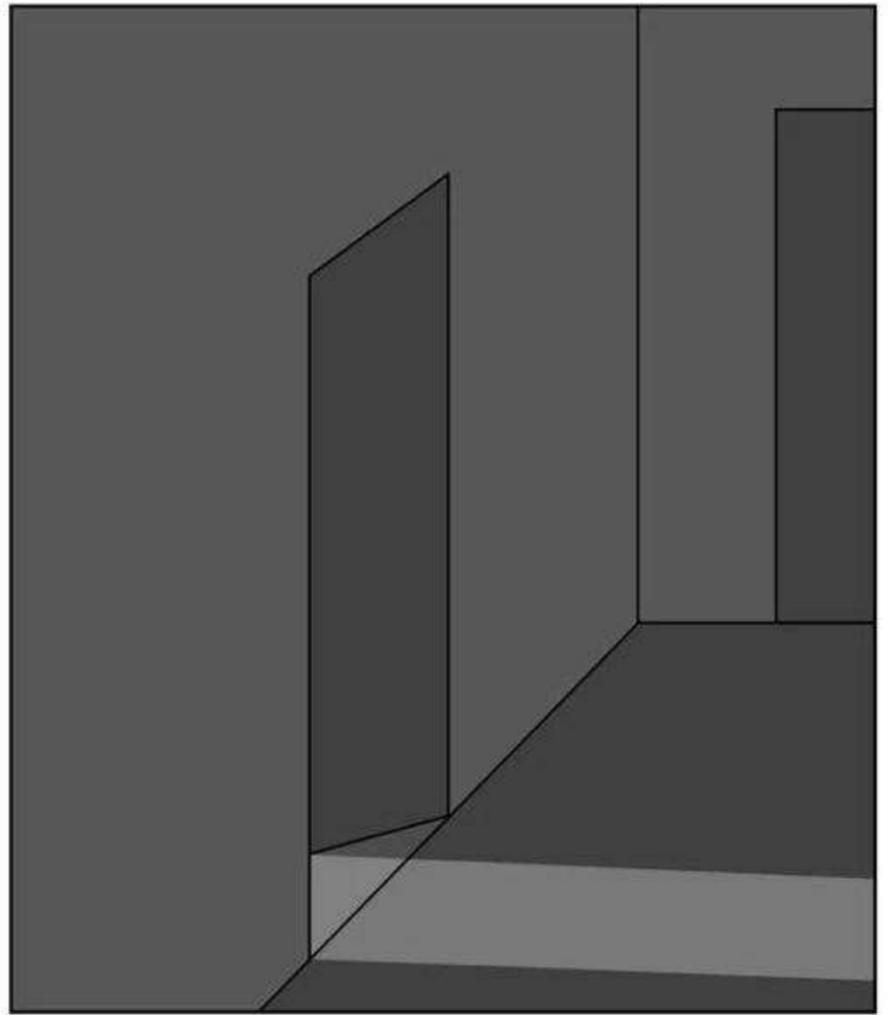
















悪い姫終  
俺が知らずにお前を  
傷つけてたんだ

お前をアヴローラと  
交換してんでもわけ  
じゃねえぞ

お前も俺にとって  
いつも大切な人  
なんだから

あのモールで  
出会った以来



昨日お前は  
お前といれば  
嬉しい思いできるか  
って聞いてくれた

お前に  
ちゃんと答えるために  
ここに連れてきた



チュツ



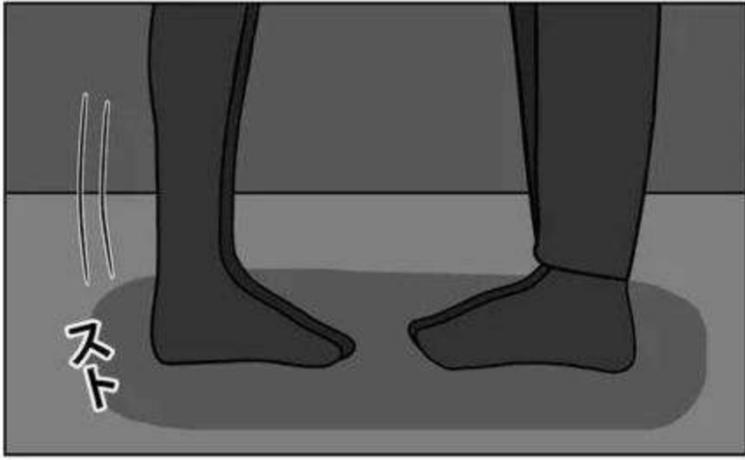
スツ



先輩…  
それは…？

はい姫終  
そうだ





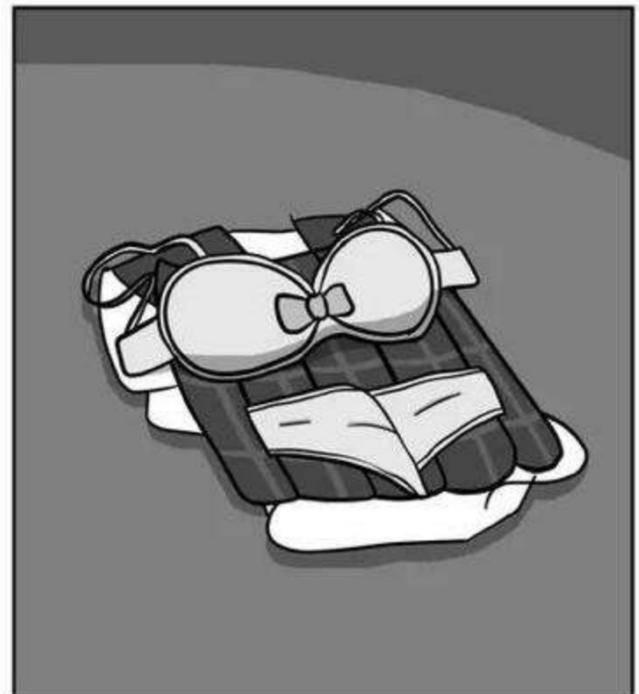
先輩…

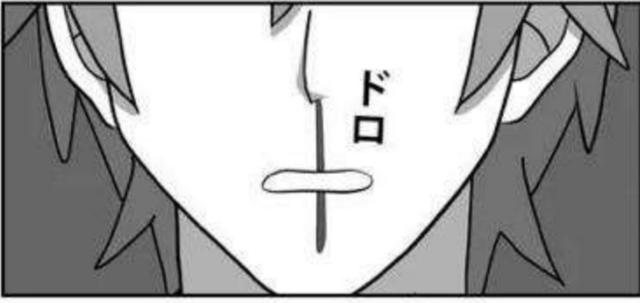
姫終…





よし  
見ていいです





せ先輩!?

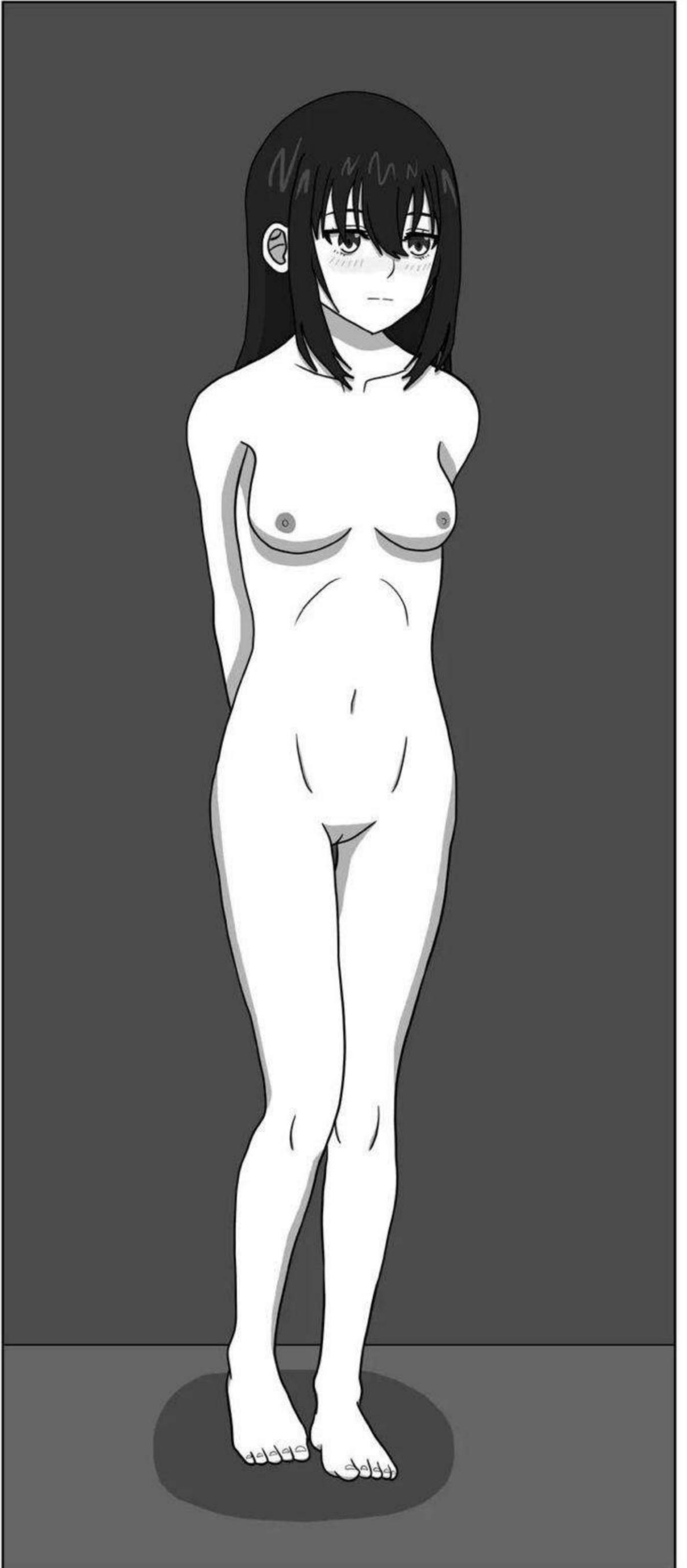
くう…  
大丈夫



ああんまり  
見ないでください

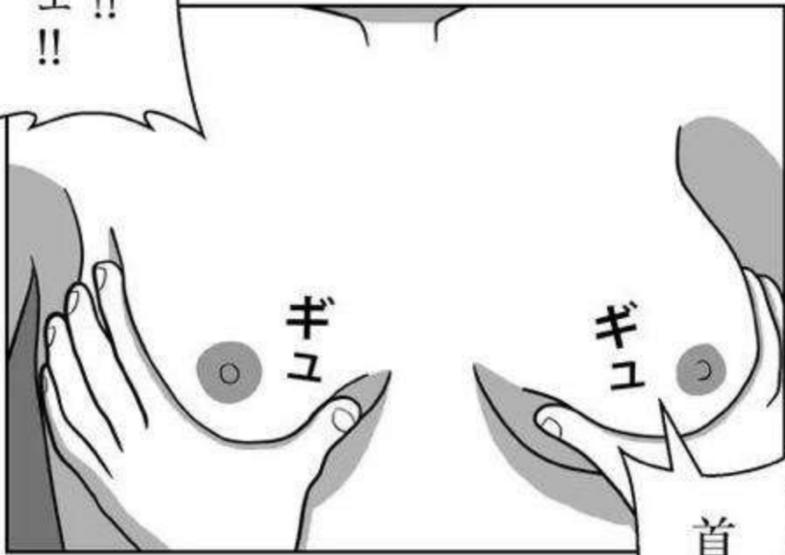
悪いでも姫終の体  
本当に美しいだな

もう…  
先輩は本当に  
いやらしい人  
なんです





いやああ!!  
ダメエエエ!!



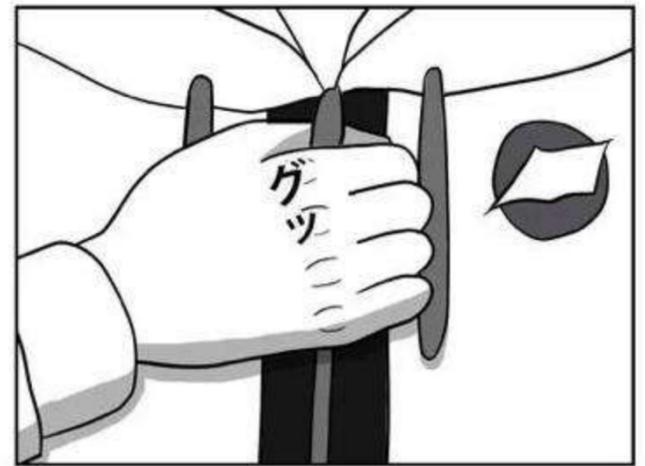
首と胸が…!!



あああ!  
吸わないで!!

ちちよっど…  
そこは…!!







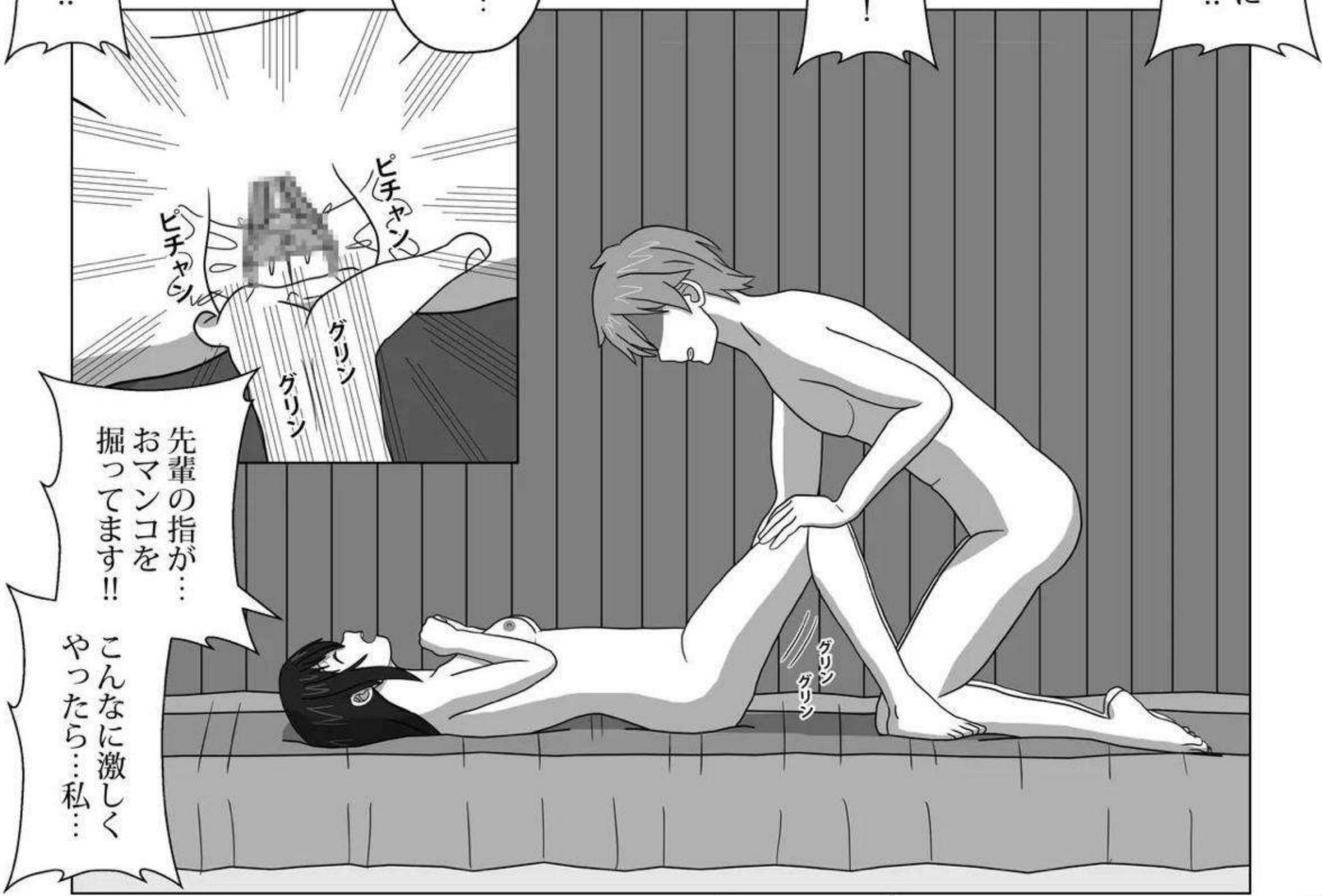


きゃあああ!!

はあ…はあ…  
これは…

おマンコが…!!

頭が真っ白に  
なってます!!



先輩の指が…  
おマンコを  
掘ってます!!  
こんな激しく  
やったら…私…



はあ…はあ…

ああああ!!!

イツちやい  
ますうう!!!



ひめ…らぎっ？

…先輩が  
やり過ぎました！

ハテ

ジク

ジク



悪い…吸血衝動に  
駆られちゃったんだろう

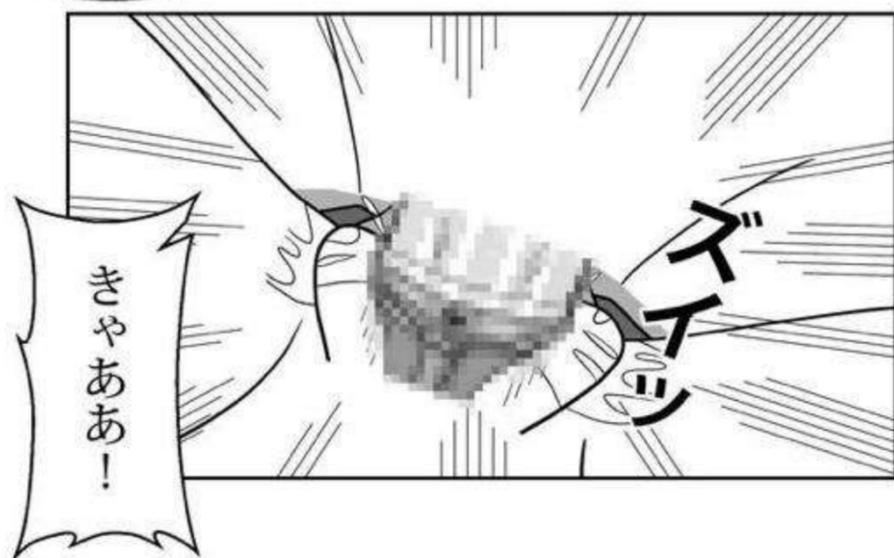
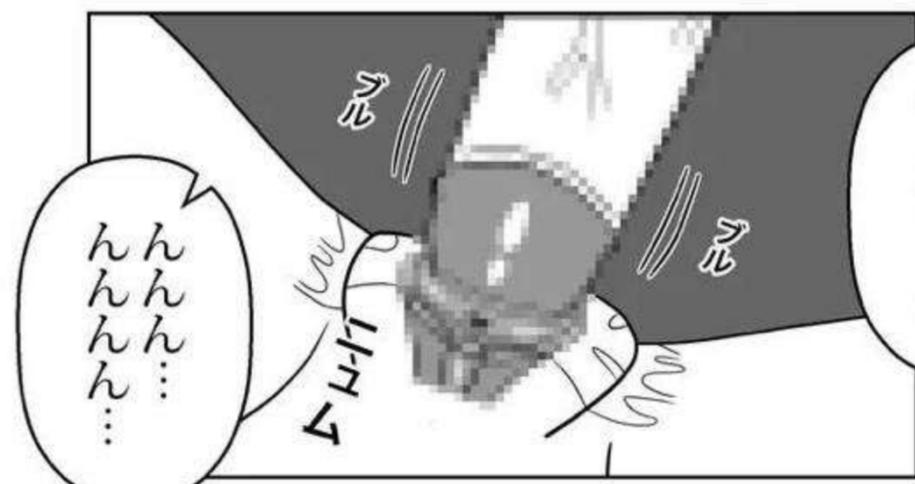
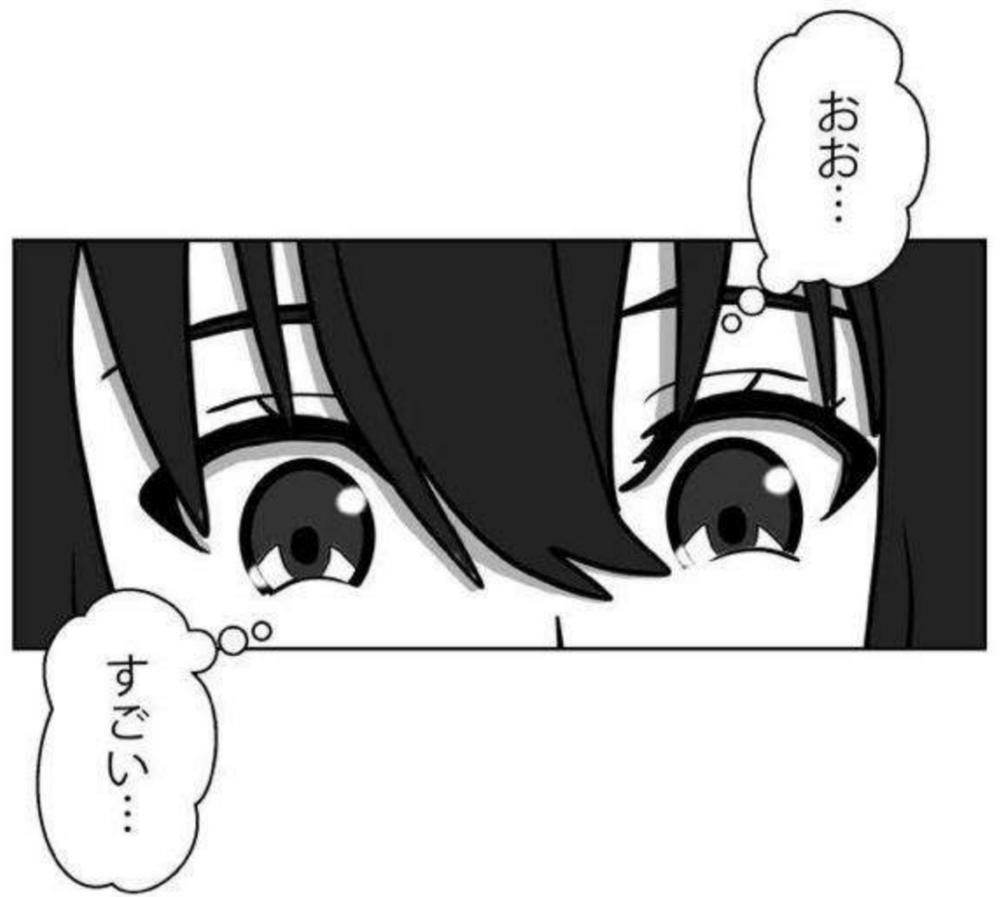
もう…これから  
もっと自制心を  
示めしてみましようね

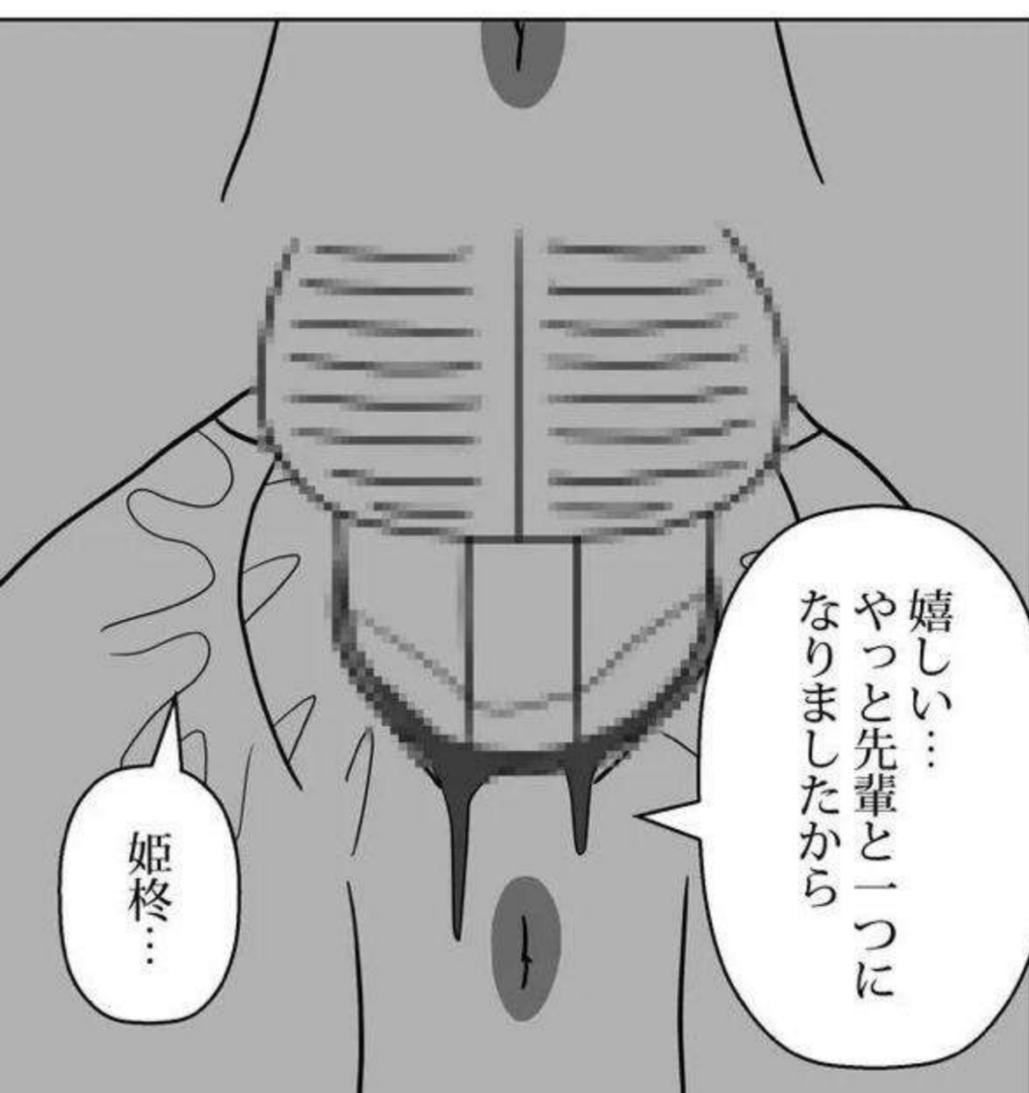


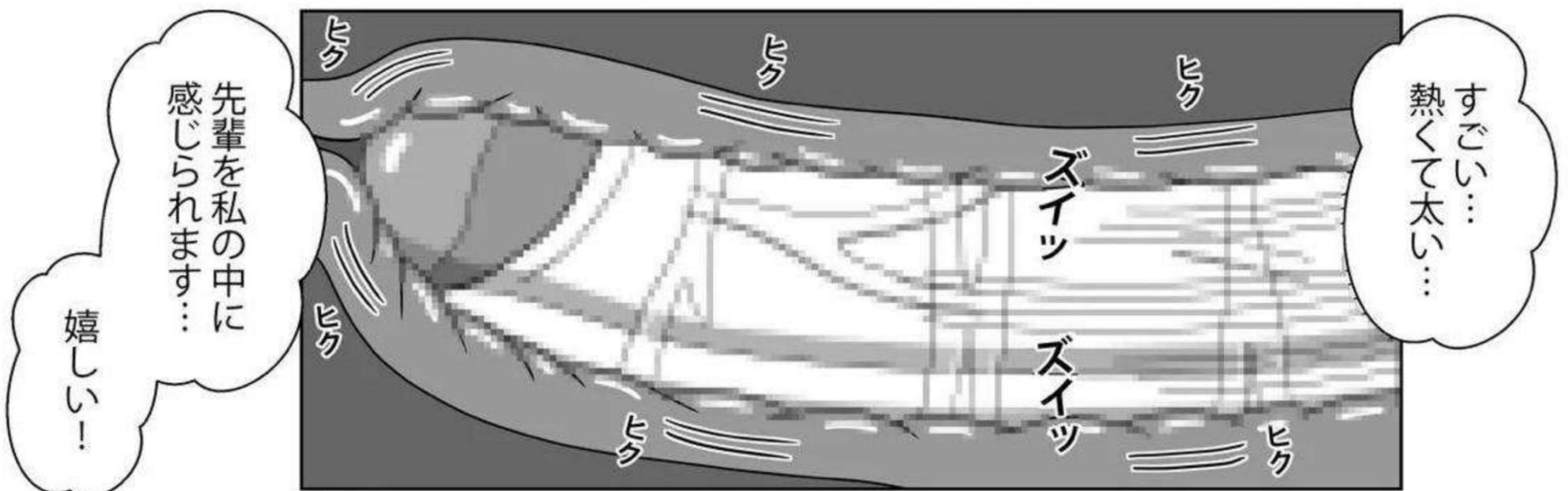
さあ先輩  
時間が来た  
と思います

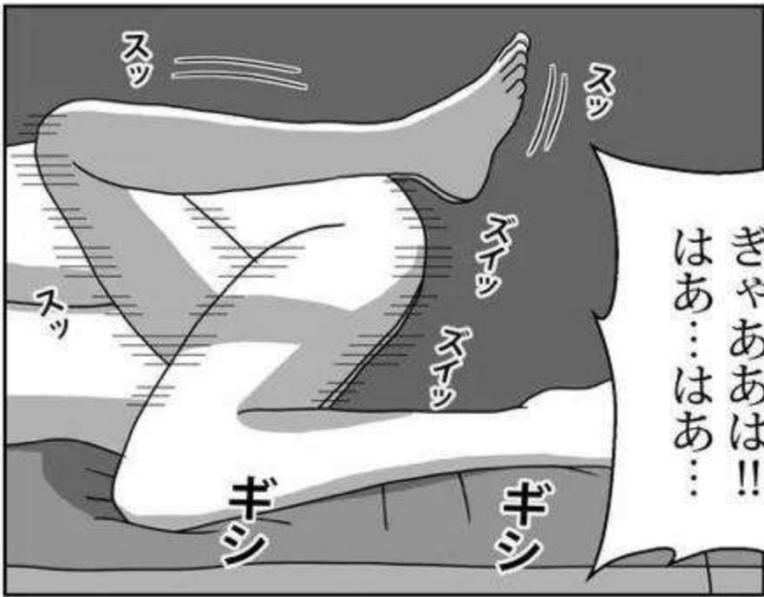
おおつまり…

はい始めたことを  
終わらせてください









姫終これから  
もうちよつと早く  
動いてやるな

...分かりました

ぎゃああは!!  
はあ...はあ...



はああ!  
はああ!  
はああ!

はああ!  
はああ!



激しい!  
ちやんと  
考えられ...

?



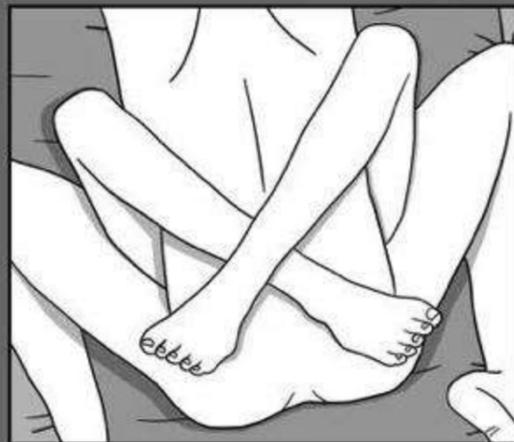
手を  
繋いでて...



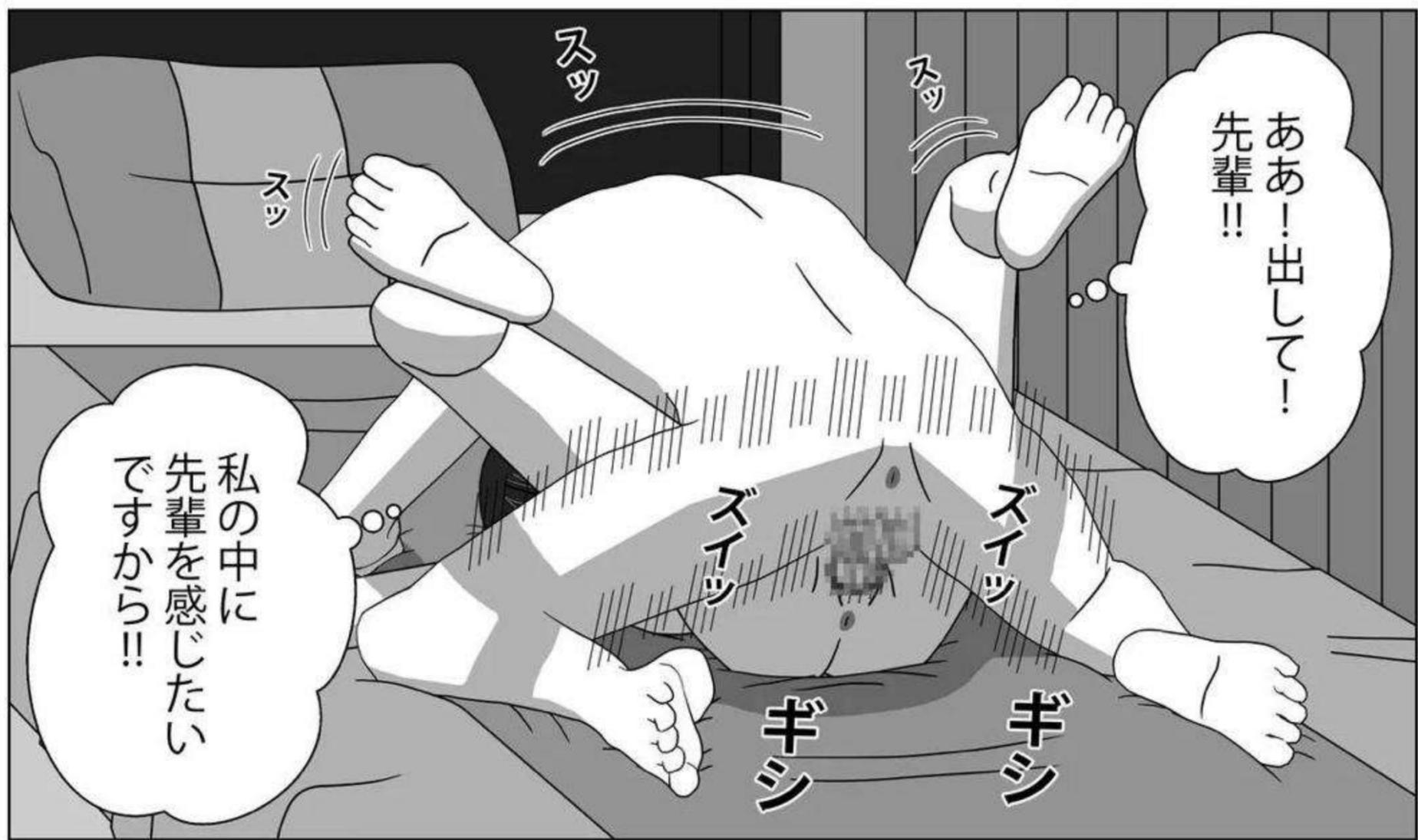
先輩が...  
キスして  
くれてて...



夢の実現の  
ようですよ!



先輩とは  
このままで  
繋がってる  
なんて...



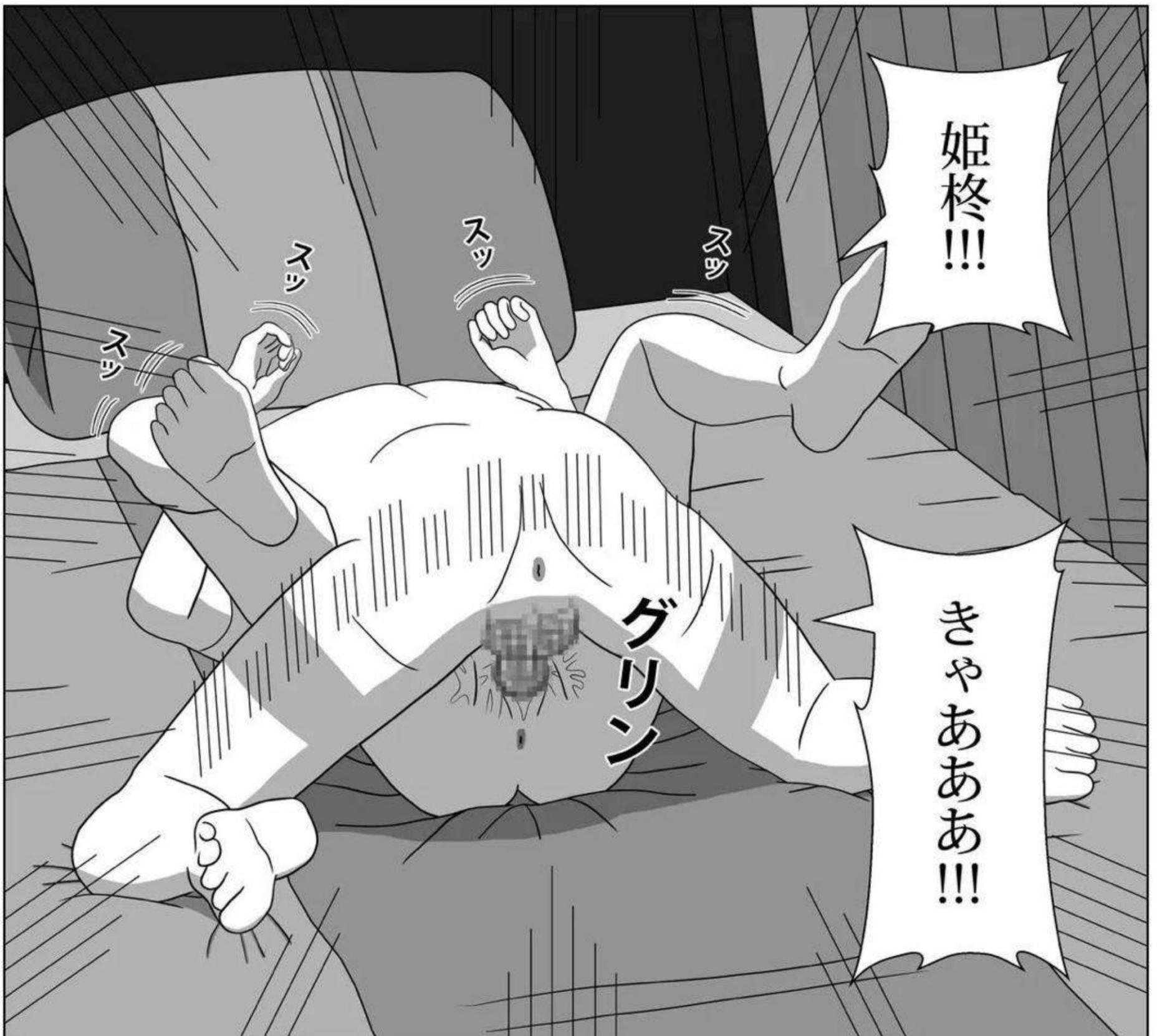
あああああ!!!

ジュジュッ

ジュジュッ









ちちよつと先輩…

いきましたばかりのに!!

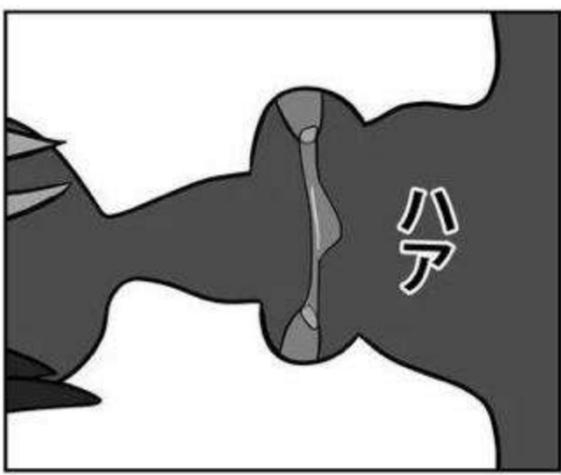
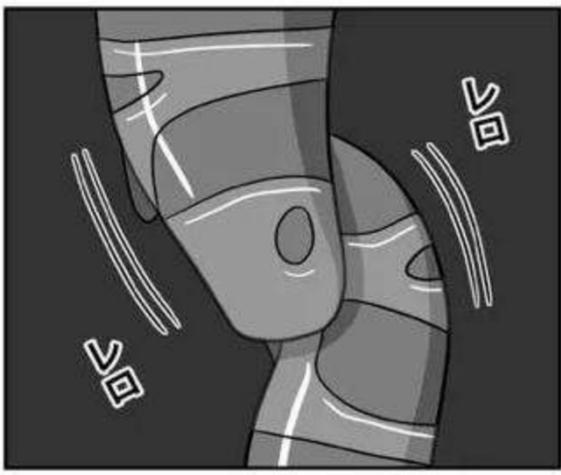


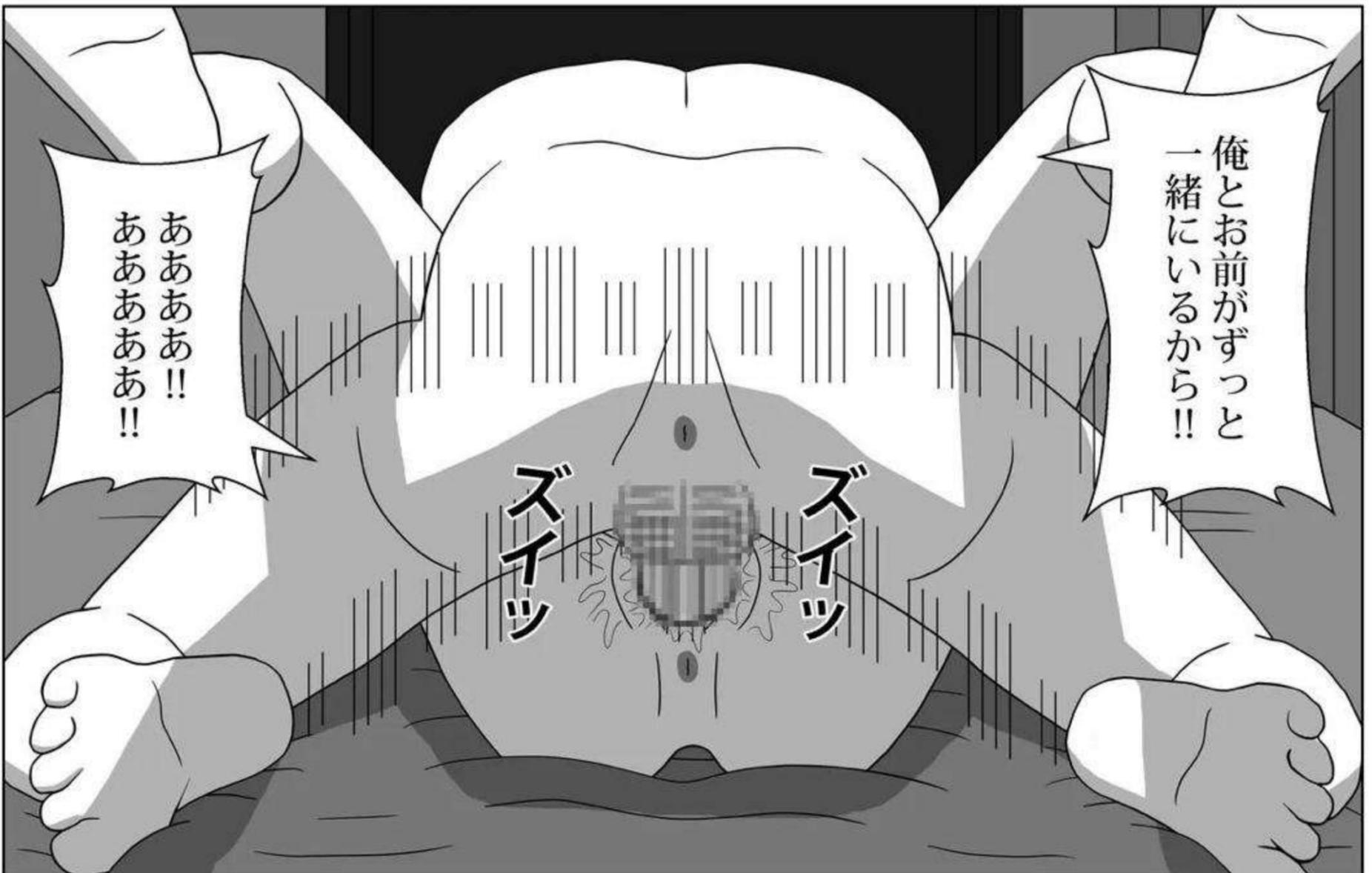
はあ!  
はああ!



先輩  
自制して  
ください!

激しく  
すぎます  
から!!





そして俺はお前が  
ずっと笑ってるために  
頑張ってるよ！

誓うぞ 姫終！

はあ…はあ…

ギシ

ギシ

いや  
誓うぞ…

雪菜!!!

ビク

せんぱい!!!

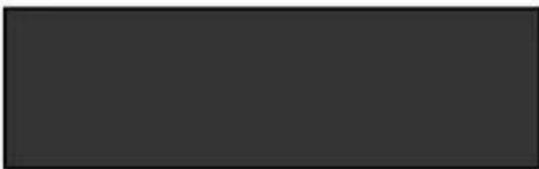
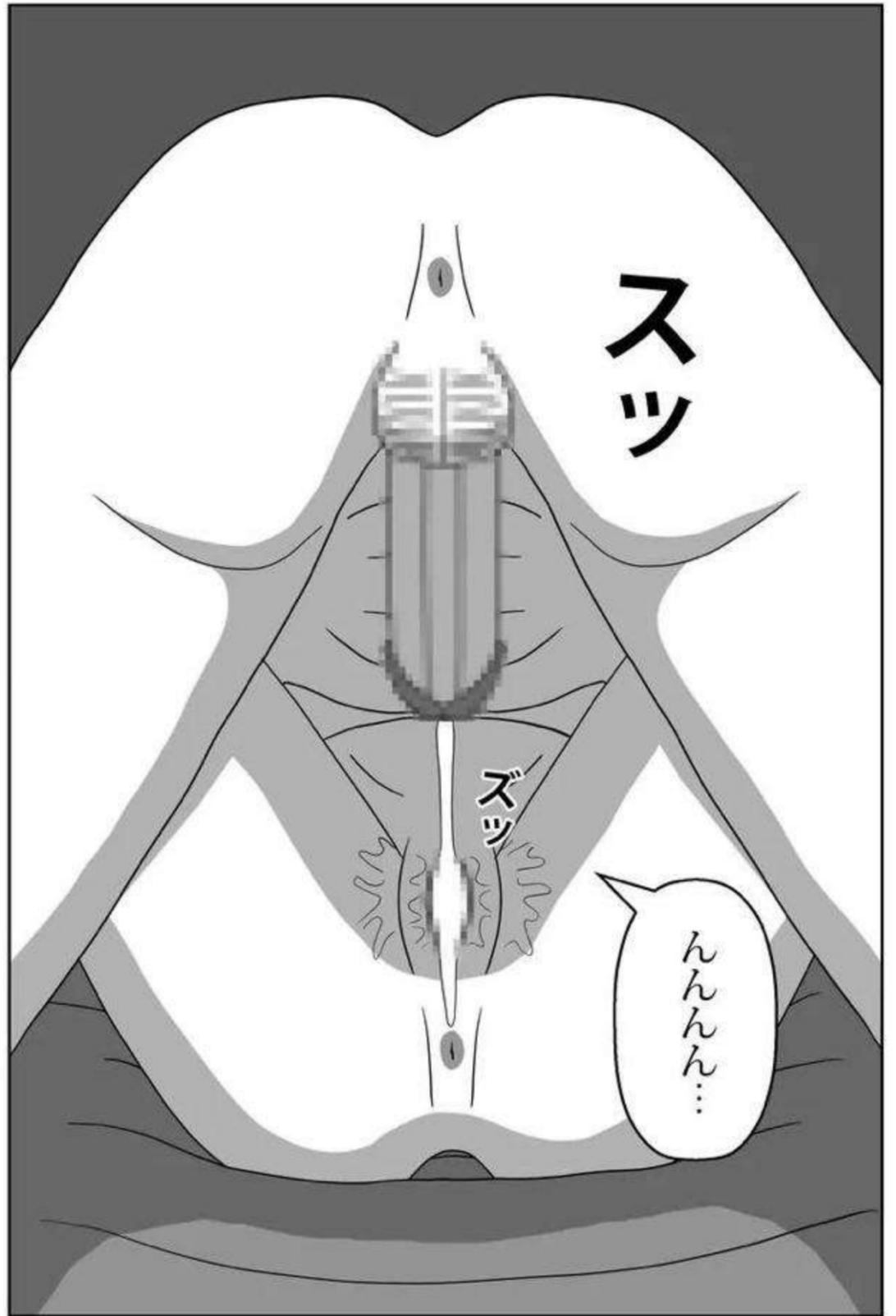
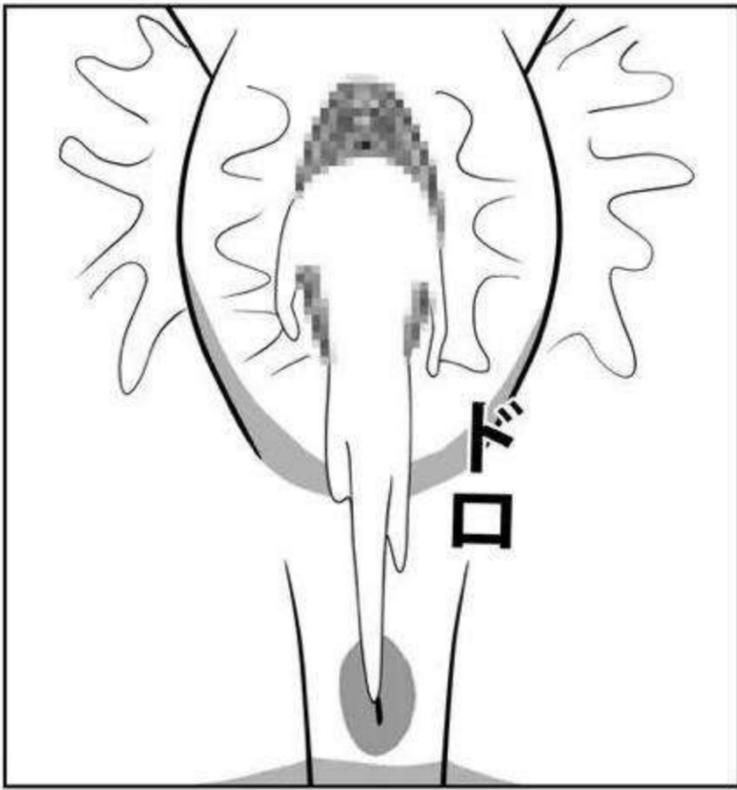
ガシ  
バツ

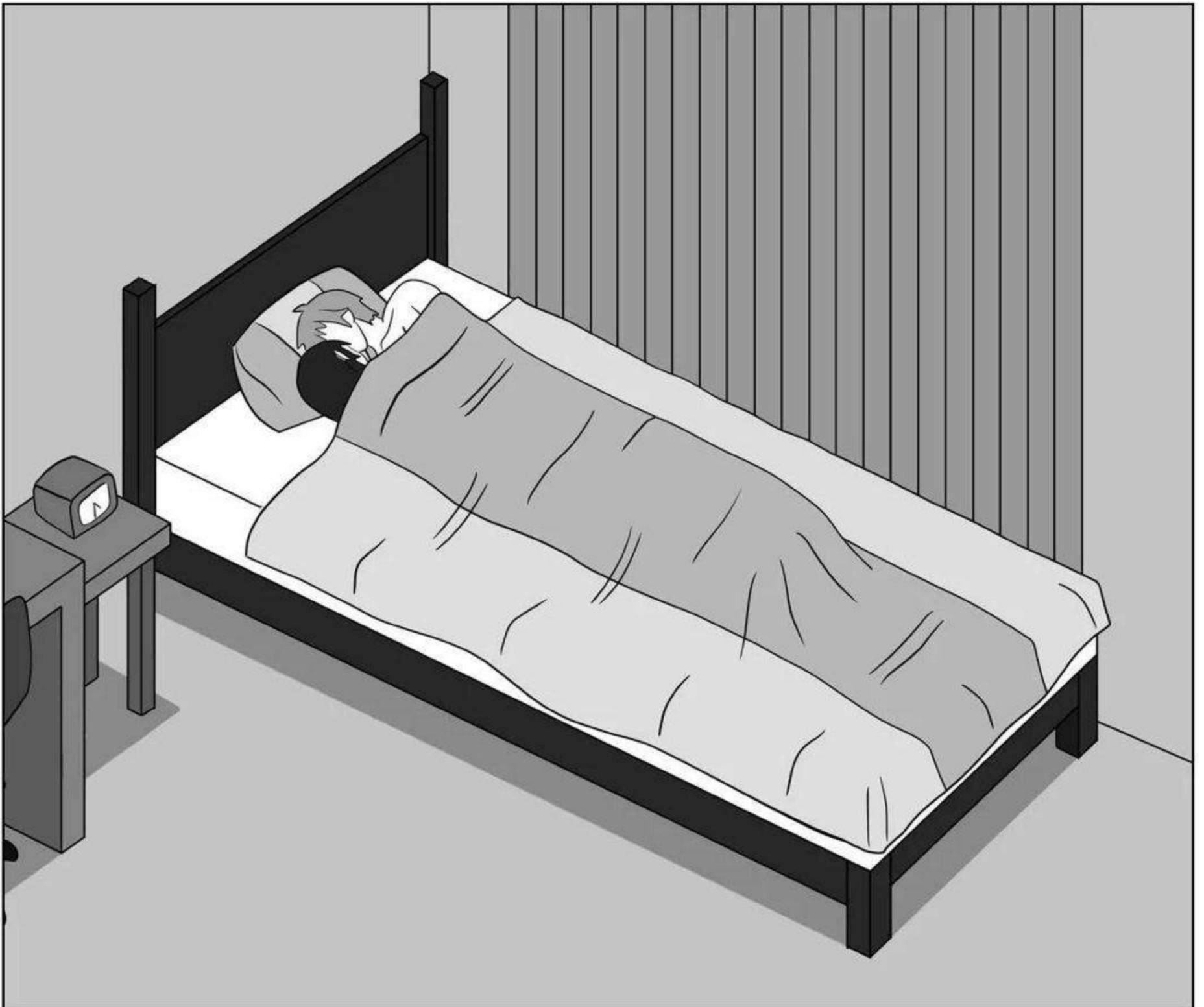
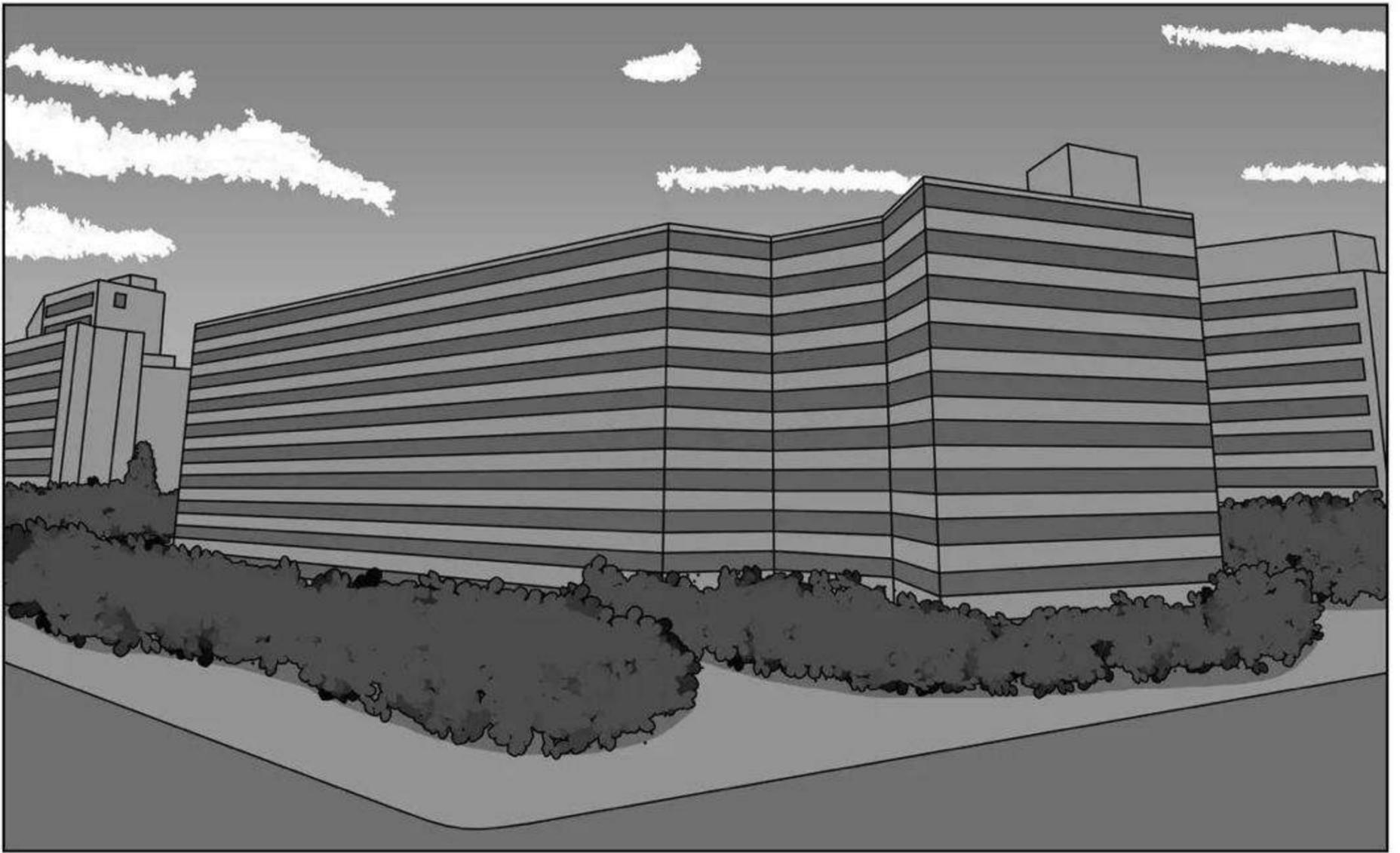




わあはあああ!!!

ジュン







じゃあ  
やったな

俺の監視役と  
セックスした

しかし今さあ…  
それをやったのは  
欲しかったからか

彼女を気の毒に  
思ったからか  
疑問に思ってる

まあ  
過去を変えることが  
ねえだろうな

今こそ  
できることは  
自問する…

「正しい選択  
だったか？」って

ああ先輩



私は待って  
ましたね



ありがとうございます  
せっかく私のために  
作ったんだから  
試そうと思いました

ネックレスは  
よく似合ってる



ううん  
服を着終わった  
姫柊

ほお「姫柊」が  
戻りましたね

まあいい  
ですけど

さて今日は  
アヴローラさんに  
会うつもりですか？

ええ!?

お前…それで  
大丈夫か？

あの時  
お前が言ったな…

先輩

昨日は人生で  
一番幸せな日でした

先輩が私のために  
そこまでやったのは  
私にとって大きな  
意味を持っています

そして先輩が  
私に対してどう感じる  
と分かってるので  
心配することが  
もうなくなりました

それでは先輩がまだ  
アヴローラさんへの  
気持ちを整理しなければ  
いけないとも大丈夫  
好きだけ時間を  
かけていいです

その間に  
私は先輩のそばに  
残ります

じゃあ…  
正しい選択  
だったか？



私は…  
先輩の監視役  
ですから！



そうだよな

うん  
そうだった



**読んでくれてありがとうございます。**

この作品はフィクションであり、  
登場する全てのキャラクターは18歳以上です。

pixiv ID: 114767225